河下港港湾改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

河下台場遺跡

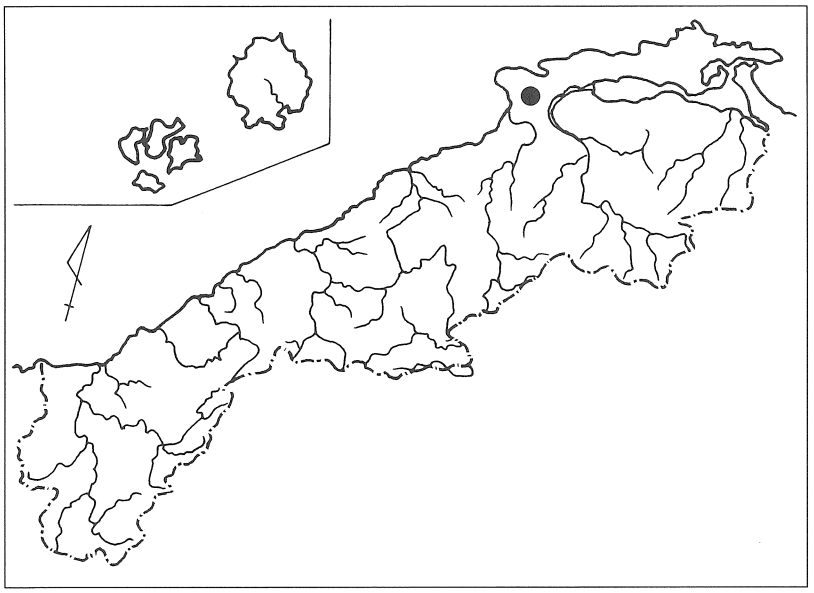
（かわしもだいばいせき）

２００７年３月

出雲市教育委員会

河下港港湾改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

河下台場遺跡



島根県出雲市の位置

２００７年３月

出雲市教育委員会

序

出雲市教育委員会では島根県出雲県土整備事務所から委託を受け、平成17年度・平成18年度の２ヵ年にわたり、河下港港湾改修事業予定地内に所在する河下台場遺跡の発掘調査を実施しました。

河下台場は幕末に松江藩によってつくられた台場で、県内で唯一良好な状態で残っている台場であります。

今回の調査によって、河下台場遺跡西台場の範囲を確認するとともに、東・西台場をつなぐ石垣土手の構造を知る上で貴重な資料となりました。本書はその報告書ですが、出雲の歴史解明に多少なりとも役立てば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査及び本書の刊行にあたりご協力いただきました島根県出雲県土整備事務所、地元の方々をはじめ、関係の方々に対して心からお礼申し上げます。

平成19年３月

出雲市教育委員会
教育長　黒　目　俊　策

例　　言

1．本書は、河下港港湾改修事業に伴い、出雲市教育委員会が平成17年度、平成18年度の２ヵ年に実施した河下台場遺跡発掘調査の報告書である。

2．発掘調査を行った地番は、次のとおりである。

　出雲市河下町113番地ほか

3．現地の発掘調査は下記の期間において実施した。

　平成18年３月１日～平成18年３月30日（平成17年度）

　平成18年８月８日～平成18年12月15日（平成18年度）

4．調査は次の組織で行なった。

　平成17年度

　〔調査指導者〕原田敏照（島根県教育庁文化財課文化財保護主事）、中村唯史（島根県立三瓶自然館主任学芸員）

　〔事　務　局〕神門　勉（出雲市文化財課長）、川上　稔（同　主査）

　〔調　査　員〕曽田辰雄（同　主任）

　平成18年度

　〔調査指導者〕勝部智明（島根県教育庁文化財課文化財保護主任）、中村唯史（島根県立三瓶自然館主任学芸員）

　〔事　務　局〕石飛幸治（出雲市文化財課長）、花谷　浩（同　学芸調整官）、川上　稔（同　主査）

　〔調　査　員〕景山真二（同　主任）、藤原雄高（同　嘱託員）、櫻井康行（同　臨時職員）

5．本書で使用した方位は真北を示す。

6．本書で使用した測地系は日本測地系である。

7．遺跡の出土遺物及び実測図、写真は出雲市教育委員会で保管している。

8．本書の執筆、編集は景山、曽田、藤原が行なった。

9．調査にあたっては、地元の方々から多大な協力を得た。記して謝意を表します。

10．発掘調査については、次の方々の協力を得た。

　水　節義、高橋賢一、中村力男、勝田光久、高橋義政、中間盛夫、建部陽子、大輝正人、佐藤倭和子、稲村玉枝、渡部義政、遠藤恭子

本　文　目　次

序

本文目次

挿図目次

第１章　位置と環境 …… 1

第２章　調査に到る経緯 …… 3

第３章　発掘調査の概要 …… 3

第４章　まとめ …… 7

写真図版

報告書抄録

挿　図　目　次

図１　十六島湾周辺の主要遺跡（Ｓ＝１：５００００） …… 2

図２　平成17年度調査柱状図 …… 3

図３　河下台場全体平面図（Ｓ＝１：８００） …… 4

図４　平成18年度調査区石垣平面図（Ｓ＝１：２００） …… 5

図５　平成18年度調査区石垣土手断面図 …… 6

図６　平成18年度調査区石垣立面図 …… 6

図７　河下台場遺跡西台場絵図（出典不明） …… 7

第１章　位置と環境

１．遺跡の位置

河下台場遺跡は出雲市河下町にあり、市の北東部に位置する。河下町は南側の標高300ｍあまりの北山山地に源をもつ唐川（からかわ）川が日本海（十六島（うっぷるい）湾）に流れ込む河口にあり、扇状地を形成し、河下台場遺跡はその扇状地の端部に築造されている。

河下台場遺跡は、異国船の来航に備えて文久３年（1863）に築造されたものである。松江藩は寛政11年（1798）に領内12ヶ所に台場を設置し、その後暫時増設していった。このうち、現在まで残存する台場は、河下台場遺跡と対岸の十六島町の網屋浜台場遺跡のみである。

２．歴史的環境

徳川幕府は寛永期に「鎖国」体制を確立し、対外貿易をオランダ、中国に限定した。これはキリスト教の弾圧を目的に対外貿易の統制・管理を計り、人的な通交をも禁止するものであった。そのため、これ以外に国交を結ぶ朝鮮や琉球、アイヌとの交易とそれに付随する寄港地のほかでの対外的な関係は認められていなかった。しかし、これに当該しない密貿易が後を絶たず、幕府は貞享２年（1685）、正徳５年（1715）と貿易制限令を公布した。特に正徳５年に新井白石より出された「海泊互市新例（正徳新例）」は、貿易許可証を出し、唐船の来航を年間30艘、貿易銀高6000貫目に制限するものであった。ただ、これにより漂流を装った密貿易船は増加の一途をたどることとなった。

松江藩でも沿岸に異国船が頻繁に来航することを受けて、享保３年（1718）３月、幕府より御触書が出される。これによると「唐船が漂流した場合は大筒や鉄砲で打ち払う」「唐人が水を汲みに上陸した場合は召し捕える」ということなどが定められ、同年５月12日には警備体制が整えられた。そして、同年７月11日に川下村（現出雲市河下町）に唐船が来航した際も、この警備体制に基いて対応が行われた。この対応については「川下村江異国船漂流一途」（島根県松江図書館所蔵史籍記録原簿）に詳しいが、11日の唐船来航を受けて大筒を川下村へ運び、13日に打ちかけ船柱に命中させるなどしたため唐船は沖へ去り、また14日にさらに大型の船が来航したが15日には去ったとされている。このように松江藩では享保３年の時点で唐船への打ち払いを行うとする方針が徹底されていた。

また、寛政５年（1793）には鵜峠浦、鷺浦、宇龍浦、日御碕浦に唐船警備として総33艘の水主・手替を選定するなど「唐船番」が整備された。そして同11年（1798）には「唐船番隊」の組織が整備され、これに伴い遠見番所、台場（砲術方・棒火方）が設置された（表）。なお、「唐船番隊」は文政11年（1828）に改編され、領内10郡への割付が6000人から4500人に変更されるなど、実情に即したものになっていった。

松江藩主松平定安は着任後すぐの嘉永７年（1854）２月に領内９台場の巡視を行い、台場の状況把握を行った。その上で文久元年（1861）に大池、文久３年（1863）に河下（川下）、杵築、福浦に新たな台場を設置した。また、文久２年（1862）11月には長崎において軍艦２艘を購入するなど、藩内の海防に務めた。

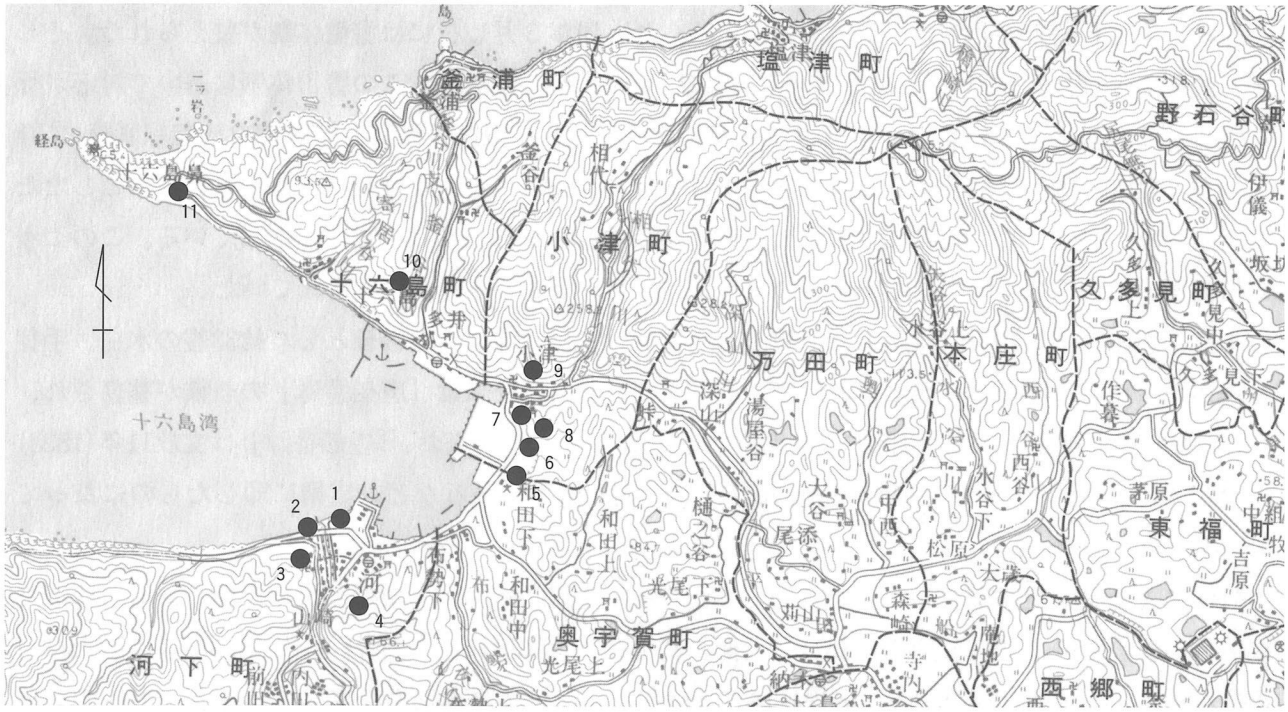
表１　寛政11年設置の台場（砲術方・棒火方）及び遠見番所

台場・砲術方	台場・棒火方	遠見番所
三保関加鼻	軽尾	三保関馬着山
片江浦大崎鼻	野波浦竹ヶ崎	多古浦上ヶ原
水浦幕島	江角浦龍ノ口	手結浦風見山
古浦塩床	三津浦ノシドの谷	十六島浦アミヤの上山
片句浦宮崎鼻	鷺浦鶴島	宇龍
十六島浦アミヤ	日ノ御碕小黒田	口田儀大畑山
川下村釜屋谷	多岐村小濱	
日ノ御碕経島		
杵築神光寺川尻		
指海村カケ山	※嘉永７年（1854）松平定安の巡視台場（上記、　　ヶ所）	
口田儀村大畑山の下		

十六島湾周辺では縄文･弥生時代の遺跡は知られておらず、古墳時代以降の遺跡が存在する。

古墳時代の遺跡としては、河下町の河下築山古墳、小津町の南許豆神社古墳群や北許豆神社古墳、恵比須神社古墳などが知られている。

中世・近世の遺跡としては、河下町の堂の原城跡、釜屋谷台場遺跡、小津町の南灘古墓群、久台場遺跡、十六島町の高島山城跡、網屋浜台場遺跡などがある。



１．河下台場遺跡　２．釜屋谷台場遺跡　３．河下築山古墳　４．堂の原城跡　５．久台場遺跡　６．恵美須神社古墳
７．南灘古墓群　８．南許豆神社古墳群　９．北許豆神社古墳　10．高島山城跡　11．網屋浜台場遺跡

図１　十六島湾周辺の主要遺跡（S＝1:50,000）

第２章　調査に至る経緯

島根県出雲県土整備事務所が計画されている河下港港湾改修事業の臨港道路予定地内には、周知の遺跡である河下台場遺跡の範囲内である。そのため平成13年度から遺跡の取扱いについて数回にわたって協議を行い、平成17年11月に事業計画がまとまり、平成17年12月28日付けで発掘調査の依頼があった。それを受けて、河下台場遺跡西台場の南側（後背地）の遺跡の範囲を確認するために、平成18年３月１日から同年３月30日の１ヶ月間で、トレンチを５ヶ所設定し範囲確認調査を実施した。その結果に基づき、平成18年８月８日から同年12月15日の約４ヶ月間で西台場本体の東側に隣接する部分の450㎡の調査を実施した（図３）。

第３章　発掘調査の概要

１．平成17年度調査

調査地は標高約2.5～2.8ｍに位置する平坦面であり、調査前には畑地として利用されていた地域である。河下台場遺跡の範囲、特に南側の後背地の部分の範囲が特定されていないため、事業予定地1,600㎡に範囲確認のために５ヶ所トレンチを設定し、南側から１Ｔ～５Ｔとし調査を行った。調査は平成18年３月１日に着手し、人力により掘削し同年３月30日に終了した。

基本的な層序としては、表土（耕作土）以下、明茶色粘質土、灰色粘質土、褐色砂礫（こぶし大の石多く含む）となっている。

１Ｔ、２Ｔトレンチでは表土から砂礫まで約30㎝の粘質土が堆積していたが、北側の３Ｔ～５Ｔは耕作土直下が砂礫層となっていた。この砂礫層の中に含まれていた須恵器片１点は、唐川川上流から流れ込んだものと考えられる。

このことから、１Ｔ～３Ｔについては河下台場遺跡の関連遺構が存在する可能性は極めて低いと考えられる。

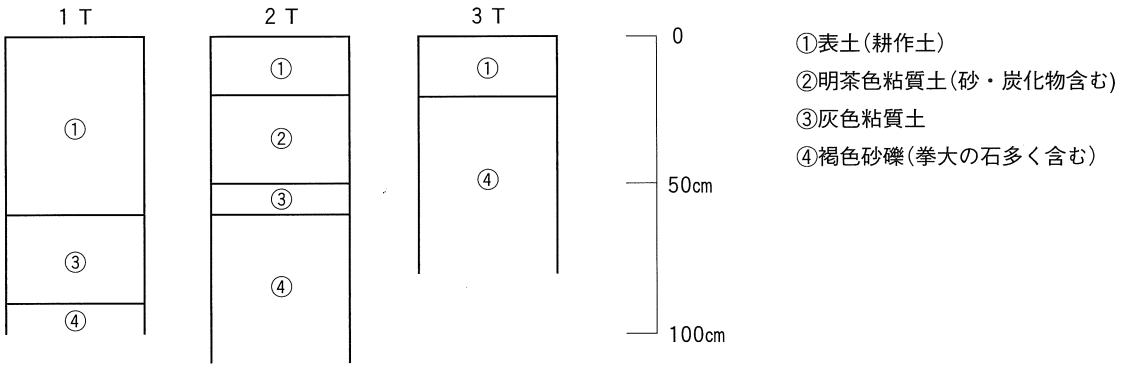


図２　平成17年度調査区柱状図

H17年度調査　　H18年度調査

図３　河下台場全体平面図（S＝1:800）

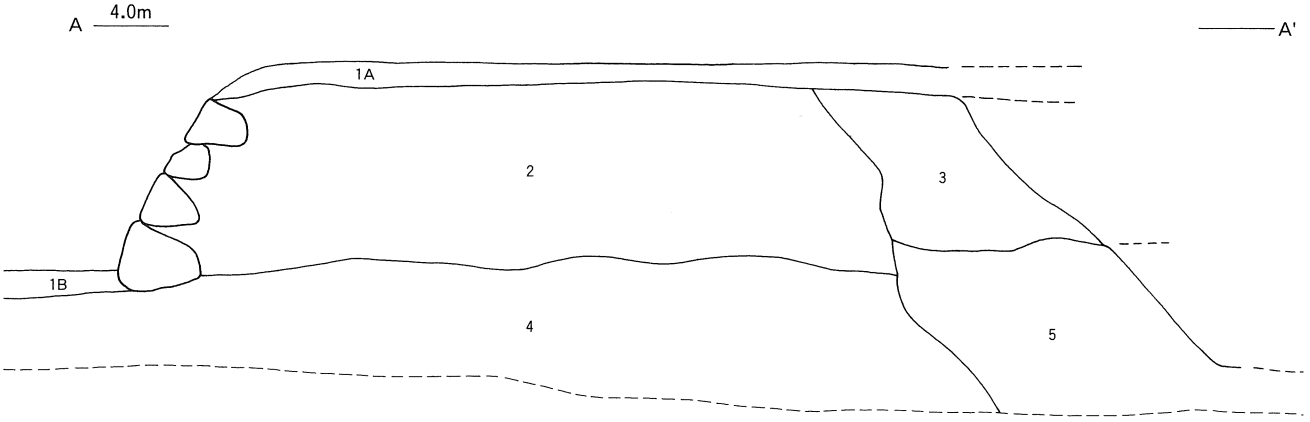
２．平成18年度調査

平成17年度の範囲確認調査の結果から、平成18年度は４Ｔから北側について、西台場本体に近い部分の450㎡を調査区に設定し、台場関連施設の遺構の有無を確認する調査を行った。調査は平成18年８月８日に着手し、人力により掘削し同年12月15日に終了した。

南側の標高約2.8ｍの平坦面は畑地であったところである。基本的な層序としては、表土(耕作土)が厚さ15㎝くらいあり、その直下に褐色砂礫(こぶし大の石多く含む)が40～50㎝、暗褐色砂礫(こぶし大～人頭大の石含む)であった。その結果、表土直下の褐色砂礫は唐川川からの流れ込みによる堆積層で、地山を形成している。この砂礫層の中には須恵器、土師器が若干含まれていたが、唐川川の上流から流れ込んだものと考えられる。したがって表土直下が遺構面となるが、耕作により撹乱されているため、遺構の検出はできなかった。

畑地より北側については、図７に描かれている西台場の東側にある「有来石垣土手」に相当する土手の一部を検出した。唐川川から流れ込んだ砂礫層を基盤とし、その上に幅２～３ｍ、高さ１ｍあり、５㎝～30㎝大の礫がぎっしり詰め込まれた状態を検出した。この礫の中には近世・近代の陶磁器の細片が少量含まれていた。本来は図７の絵図のとおり、土手の両脇に石垣があったと考えられるが、現在は南側だけ残っている。この石垣は、高さ約1.1ｍで径が30㎝くらいの石が使われている。前面(海側)の石垣は波で洗掘され壊された可能性が高い。

図４　平成18年度調査区石垣平面図(Ｓ＝1:200)



1 A．褐色土(表土)
1 B．茶褐色土(耕作土)
2．土手を形成する礫(人為的に石を詰め込む)
3．茶褐色砂礫(コンクリート擁壁工事の際に埋め戻された砂礫)
4．褐色砂礫(唐川川から流れ込んだ砂礫)
5．黄褐色砂(波に打ち寄せられた砂)

図５　平成18年度調査区石垣土手断面図

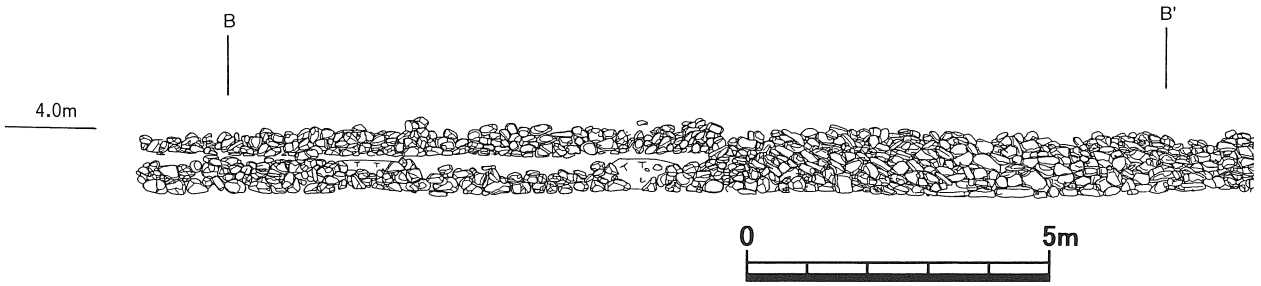


図６　平成18年度調査区石垣立面図

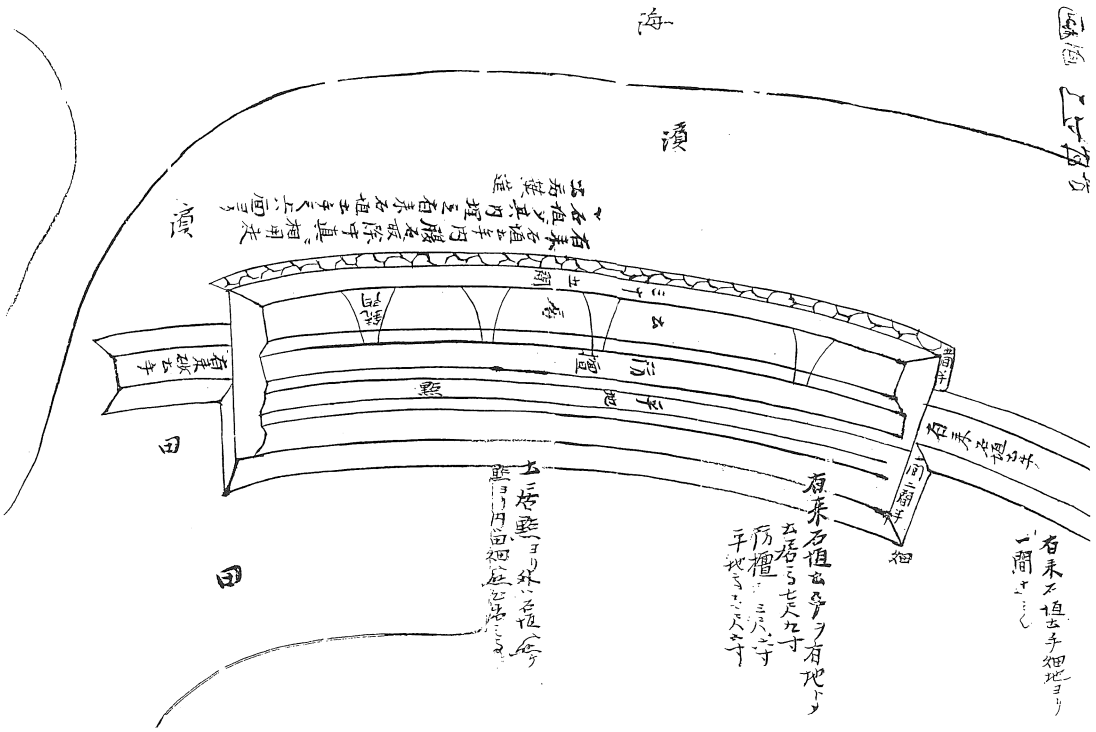


図７　河下台場遺跡西台場絵図（出典不明）

第４章　まとめ

今回の調査で検出した土手は、表土直下の唐川川から流れ込んだ砂礫層を基盤とする層の上に石垣を築き、その中に５㎝から30㎝大の石を詰め込んだだけのつくりが比較的軟弱な構造である。

調査前は台場本体の一部と考えられていたが、調査の結果、台場本体の構造と違うこととから、絵図に描かれている「有来石垣土手」の一部であると考えられる。

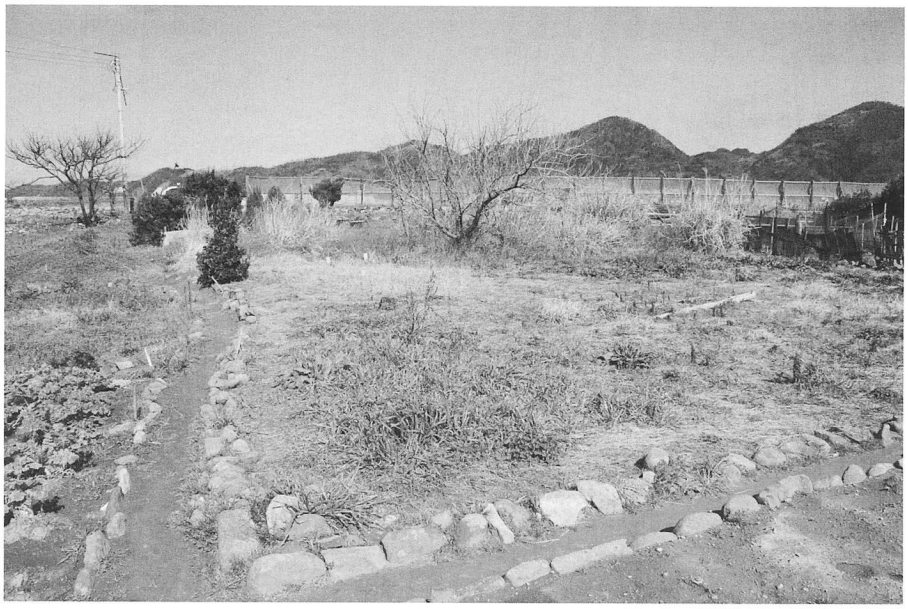
前面が波で洗掘され壊され、また昭和30年代にコンクリート擁壁の防波堤がつくられ、かなり形状を改変された可能性が高い。したがって今回の調査では全容を解明することはできなかったので、今後の発掘調査、文献史料調査等の成果に期待する。

写 真 図 版

平成17年度調査・調査前（南から）

平成17年度調査・調査前（北から）

図版2



平成17年度調査・調査前
（中央から北へ）

平成17年度調査
1Ｔ調査区土層堆積状況

平成17年度調査
2Ｔ調査区土層堆積状況

平成17年度調査
3T調査区土層堆積状況

平成17年度調査
4T調査区礫検出状況

平成17年度調査
5T調査区土層堆積状況

図版4

平成18年度調査・河下台場全景（南上空から）

平成18年度調査・調査前全景（南から）

平成18年度調査・調査前石垣全景（西から）

平成18年度調査・調査前石垣全景（東から）

図版6

平成18年度調査
土層堆積状況（調査区南側）

平成18年度調査
土層堆積状況（調査区北側）

平成18年度調査
石垣土手土層堆積状況

報　告　書　抄　録

ふりがな	かわしもだいばいせき
書名	河下台場遺跡
副書名	河下港港湾改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編集者名	景山真二　曽田辰雄
編集機関	出雲市 文化観光部 文化財課
所在地	〒693-8530　島根県出雲市今市町109番地1　TEL0853-21-6893
発行機関	出雲市教育委員会
所在地	〒693-8531　島根県出雲市今市町109番地1
発行年月日	平成１９年（２００７）３月３０日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
河下台場遺跡	島根県(しまねけん) 出雲市(いずもし) 河下町(かわしもちょう)	32203	X175 (島根県遺跡番号)	35° 26′ 54″	132° 44′ 50″	平成17年度 2006.03.01 ～ 2006.03.31 平成18年度 2006.08.08 ～ 2006.12.15	450m²	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
河下台場遺跡	台場跡	幕末	土塁･石垣	陶磁器	絵図に描かれている「有来石垣土手」を検出した

河下港港湾改修事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

河 下 台 場 遺 跡

平成19年３月30日発行

編　　集：出雲市 文化観光部 文化財課
島根県出雲市今市町109番地1

発　　行：出 雲 市 教 育 委 員 会
島根県出雲市今市町109番地1

印刷･製本：オ リ ジ ナ ル
島根県出雲市塩冶町267－5